

# 共栄の織り

手織物の「共栄の織り」では、障害のある方が作られた反物を支援する方々が裁縫し作り上げた製品を提供しています。

参拝バッグ  
&  
名刺ケース



私が「共栄の織り」を知るきっかけとなったのはインスタグラムでした。多くの寺院の方々が紹介されていて気になり、この度購入してみました。



参拝バッグは

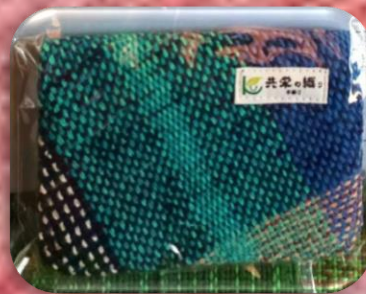
- ・内ポケットが2つ
- ・マグネットホック開閉
- ・ストラップ付

カギ等の大事な小物もストラップのお陰で迷子になりません。内ポケットも2つあるので整理しやすいです。

名刺ケースは

- ・ポケットが2つ

名刺だけでなく、クレジットカードやポイントカード、診察券入れにも出来ますよ。



「共栄の織り」がSDGs の活動に取り組まれていることを知り、また幅広く考えると浄土真宗のビハーフ活動の一環にも僅かですが携わることが出来るかもしれないと思い購入させていただきました。



三重県四日市市の障害者自立支援施設共栄作業所（藤田勝彦所長）は、オリジナルの手織物ブランド「共栄の織り」で輪袈裟や門徒式章を製作・販売している。同市社会福祉協議会で藤田所長（58、写真下右側）と同僚だった同市・正久寺の安田淳住職（57、同左側）が提案したのがきっかけ。藤田所長は「福祉は寺院が大切にされている活動の一つ。多くのお坊さんやご門徒さんに身につけていただければ」と話している。

共栄作業所は主に知的障害がある人の通所型自立支援施設として、1977年に同市社協が運営を開始。通所者が作った手縫いの小物などを販売してきた。2003年



からは、機械織りにはない豊かな表現性と温かな風合いが特徴の「さをり織り」の手法を取り入れ、小物入れやマフラー、バッグなどの製作を開始。4年前、同作業所の織物に興味を持っていた安田住職から「オリジナルの輪袈裟が作れないか」と提案を受け、試作品を作った。「それを法要や会合に着けていくと、『とてもおしゃれ』『独特の生地がいい』と皆さんから好評だった」と安田住職。これがきっかけで輪袈裟作りが始まった。

現在、作業に従事する通所者は11人。彼らが足踏み平織り機で織った（写真右）生地を、職員が袈裟などの形に整え、縫製して製品に仕上げる。藤田所長は「生地の色合いやデザインは織り手それぞれの感性任せ。長さ7〜9cmほどの反物を織るのに2週間ほどかかるが、世界にたった一つの織物です」と話す。

輪袈裟作りに合わせて、寺院関係者向けに参拝バッグなどの製作を開始。昨年夏からはネット通販（「織りの郷」で検索）も始めた。本願寺派社会福祉推進協議会東



海支部は東海教区の研修会で案内のチラシを配るなど活動を支援しており、福岡や富山、大阪などの寺院からも問い合わせが相次いでいる。

藤田所長は「輪袈裟を製作するようになって、多くのご寺院とつながりをいただいています。通所者の人たちの励みにもなっている」と喜ぶ。作業所には連日、織り機のリズムカルな音が響いている。

問い合わせは同作業所 ☎059(322)1783。

本願寺新報 2020(令和2)年4月1日号掲載

本願寺新報でも紹介され、浄土真宗本願寺派社会福祉協議会東海教区支部も応援されています。



浄土真宗本願寺派の東海教区仏教婦人研修会の会場で出張の展示即売会をされた時の写真です。

この度の納品書に本願寺の大銀杏の一筆箋が添えられていました。沢山のご注文があり、お忙しいでしように、手書きで書かれていてお気持ちが伝わって参りました。

Instagramのご縁からインターネットで注文しましたが、担当者の方からお電話を頂戴し、その際には藤田所長も挨拶して下さいました。発送された際にも連絡がありました。様々な点で御心遣いをいただき、素敵なお縁、素敵な買い物が出来ました。

有り難うございました。



ホームページやインスタグラムは、

『共栄の織り』

で検索してみてくださいね。



社会福祉法人 四日市市社会福祉協議会

障害者自立支援施設共栄作業所

電話 059-322-1783

メール [y-kyouei@m5.cty-net.ne.jp](mailto:y-kyouei@m5.cty-net.ne.jp)

所在地 〒510-0943

三重県四日市市西日野町4070-1